

# 肝心かなめの 肝臓 のはなし

19

香川大学医学部消化器・神経内科教授  
正木 勉

## 男性に多い肝疾患

### ～原発性硬化性胆管炎とは～

これまでお話ししました原発性胆汁性胆管炎、自己免疫性肝炎は女性に多い疾患でしたが、今回はそれによく似た疾患として、男性に多い原発性硬化性胆管炎についてお話しします。

肝臓内外の胆管（胆汁を運ぶ管）の線維化が強くなり、胆管は狭窄し（すぼまって狭くなり）、ビリルビンという胆汁の色素の値が上昇します。また、胆管が炎症を起こすために、血液中の胆道系酵素（γ-GTP、ALP）の数値も上昇していきます。

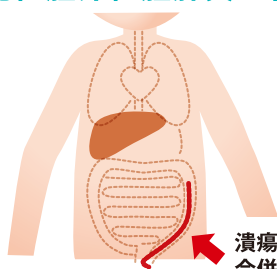
### 進行すると肝硬変に合併症も注意

症状としては、初期は無症状ですが、進行すると慢性肝炎の終末像である肝硬変に至るため、黄疸や皮膚のかゆみ、全身の倦怠感が見られます。診断は、胆管の狭窄と拡張が交互に見られることを画像で確認します。治療としては、薬物

療法としてウルソ、進行すれば肝移植の適応となります。

またこの疾患は、炎症性腸疾患である潰瘍性大腸炎を約30%の割合で合併することの特徴的です。悪性腫瘍、胆管がんも約10%程度合併しますので、注意を要します。

## 原発性胆汁性胆管炎の特徴



潰瘍性大腸炎を合併（約30%）

### 症状

- 黄疸
- 皮膚のかゆみ
- 全身の倦怠感

### 血液検査値

- ビリルビン上昇
- 胆道系酵素（γ-GTP、ALT）上昇
- AST、ALT上昇

原因不明の胆管の慢性炎症性疾患。進行すると、肝硬変（慢性肝炎の終末像）や肝不全になる。

成人男性で、ビリルビンと胆道系酵素の数値が高い人は専門医を受診し、この疾患を除外するために一度は精密検査をする必要があります。次号はアルコール性肝炎についてお話しします。